

テングコウモリ

Murina leucogaster Milne-Edwards

全国カテゴリー；絶滅危惧 類

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少 b 生息地が局限

【形態】 前腕長41～46mm、頭胴長59～73mm、尾長36～47mm、体重9～15g、灰褐色の体毛で刺し毛の先端が銀色の金属光沢、腿間膜の上面全部が長い毛で覆われ、鼻孔が管状で外側やや前方に突出する。

【分布】 インド北東部、中国、シベリア東部、日本に分布。日本では、北海道、本州、四国、九州から報告されている。日本産を別種ニホンテングコウモリ (*M. hilgendorfi*) とする見解もある。

【県内の分布、生息状況】 県内では1970年代より、福島市、いわき市、原町市、鹿島町の洞穴から確認されているが、詳しい分布状況は不明である。

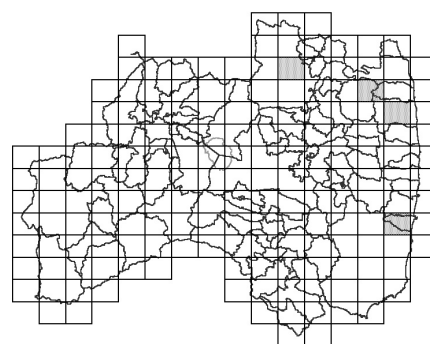
【生息に影響を与えている要因】 森林伐採(ねぐらとなる大径木の消失、採餌環境の悪化) 餌となる昆虫の減少 生息地局限 洞穴内の攪乱

【特記事項】 本来は樹洞を昼間のねぐらとしていると思われるが、洞穴から単独で確認されることもある。樹洞のある自然林の消失により、生息環境の悪化が懸念される。

【生息データ件数】 5

【主要文献】

- 木村吉幸(2001)福島県の翼手類 . Animate, (2) : 19-21 .
 木村吉幸他(2002b)福島県に生息するコウモリ類 . 哺乳類科学, 42(1) .
 前田喜四雄(1994a)コウモリ目 . (阿部 永監修：日本の哺乳類) .
 前田喜四雄(2002i)ニホンテングコウモリ . (改訂版レッドデータブック) .
 高橋紀信(1984)立石鍾乳洞群 . 鹿島町の文化財, 4 .



コテングコウモリ

Murina ussuriensis Ognev

全国カテゴリー；絶滅危惧 類

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少 b 生息地が局限

【形態】 前腕長29～33mm、頭胴長41～54mm、尾長26～33mm、体重3.5～6.5g、黄土色から薄茶色系の体毛で、腿間膜の上面全部が長い毛で覆われ、鼻孔が管状で外側やや前方に突出する。同属のテングコウモリとは身体の大きさが小さいこと、体毛が違うことから区別できる。

【分布】 シベリア東部・北東部、サハリン、千島列島、朝鮮半島、日本に分布。日本では北海道、本州、四国、九州、対馬、壱岐から報告されている。日本産を別種ニホンコテングコウモリ (*M. silvatica*) とする見解もある。

【県内の分布、生息状況】 県内では、尾瀬(1973年、2000年)と只見町(1997年、1998年、2002年)で確認されているが、詳しい分布状況は不明である。1973年に尾瀬湖畔の標高1680mで捕獲された個体がタイプ標本である。

【生息に影響を与えている要因】 森林伐採(ねぐらとなる大径木の消失、採餌環境の悪化) 餌となる昆虫の減少 生息地局限

【特記事項】 本来は樹洞を昼間のねぐらとしていると思われるが、県外では木の茂み、樹皮の間隙、洞穴や家屋での確認例がある。樹洞のある自然林の消失により、生息環境の悪化が懸念される。

【生息データ件数】 6

【主要文献】

- 木村吉幸(2001)福島県の翼手類 . Animate, (2) : 19-21 .
 木村吉幸他(2002b)福島県に生息するコウモリ類 . 哺乳類科学, 42(1) .
 前田喜四雄(1994a)コウモリ目 . (阿部 永監修：日本の哺乳類) .
 前田喜四雄(2002j)ニホンコテングコウモリ . (改訂版レッドデータブック) .
 佐藤洋司(2001)哺乳類 . (只見町史資料集4「会津只見の自然」) .
 吉行瑞子(1974)尾瀬の翼手類 . 尾瀬の保護と復元, : 34-37 .
 吉行瑞子(1980)尾瀬の森林棲翼手類について . 哺乳動物学雑誌, 8(2・3) .
 Yoshiyuki M.(1983)A New Species of *Murina* from Japan .
 Yoshiyuki M.(1989)A Systematic Study of the Japanese Chiroptera .

